

令和5年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立浅羽野中学校
-----	------------

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	本校は「防災教育」を柱に学校経営を進めてまいりました。もちろん、その他必要なことも多々ありますが、「防災教育」に的を絞って、この教育を通して本校の学びを築いていきたいと考えています。地の利を生かした教育をこれからも推進し、地域に根付いた学校経営を目指していきます。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、地域防災会長との顔合わせなどが実施されており、防災教育に力を入れていることがよく分かる。地域としても中学生を頼りにする場面もあると思いますので、継続願いたい。 ・防災教育の重点化は大いに評価。 ・この学校で学びたい、学ばせたいと思える学校づくり。 ・災害時における生徒の立場を本人たちに意識させ防災に力を入れているのがよく分かります。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	能登半島地震の影響もあり、多くが当事者意識を持って対応できました。学校備え付けの防災マニュアルを改めて確認し、防災訓練のやり方もより実践に向けた訓練に繋がるよう今後検討していきたいと考えています。また、その他有事の対応についても不審者対応研修や生徒(2年生)がAEDの実技研修を実施しました。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練も能登半島地震で生徒も関心が高まり、更に実践的な訓練が望まれる。また、その他の有事対応として不審者が侵入した際の対応訓練も必要と思われる。 ・いつもすばやい連絡があり、生徒の安全を第一に考えていただいていると思います。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	B	課題の多くは仕事の偏りについてでした。しかし、均等に仕事を割り振ることはできなく行事の中心となる方の負担は大きくなりますが、この点をより一層教職員が一丸となって負担軽減に繋げていくことが次年度への課題です。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今やっている業務の必要性、それに変わる方法など一人一人が常に関心をもって思い切った改革を進めてほしい。 ・年休取得に改善がみられ良い方向。業務量に偏りがあるようだが、業務改善だけではなく保護者対応等も課題。 ・先生の人数が物理的に少ないため一人一人の負担が多いことが問題です。小学校と連携して行えることがあればと思います。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。(市共通項目)	A	学習指導要領の改訂から3年が経ち、「主体的・対話的で深い学び」が根付き、そこにタブレットが導入されたことで一気に授業改善が進みました。生徒も、タブレットの使用に関心が高くより積極的に学習へ取り組みました。今後は学力調査の結果を踏まえ、より効果的な学習を探索し、授業改善に研鑽していきます。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の参観では何でも新しいものに挑戦し、わかりやすい工夫した授業を展開している様子がよく分かりました。今後もそのような姿勢を継続してほしい。 ・タブレットの活用には敬意を表します。 ・グループ学習やPCを取り入れたりするなど各教科ごとにより良い授業を行うための工夫がされています。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	今年度から道徳の授業が帯となり、より道徳の授業の充実が図られました。本校では、担任以外も授業を受け持ち、多くの教員で道徳教育を充実させています。しかし、行事との兼ね合いで、どうしても振替が必要な時期があり、この点が課題となりました。次年度は、見通しを持った教育課程の編成に向けて調整していきます。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心を育む授業は道徳の時間だけでは難しいと思う。先生方が常にそのようなことを心がけて生徒に接触していくことが必要だと思われる。 ・幅広い道徳教育には教材の充実も必要では。 ・これも教員の人数の少なさが問題であると考えます。 ・課題が明確にされ、解決の努力を評価したい。 ・関係機関(警察署等)との連携により、内容の一層充実させた指導をお願いしたい。また、いじめについては記名アンケート以外の情報入手窓口は多く設定してほしい。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	生徒が落ち着いていること、あいさつが積極的であることなど、この点は来校者からも評価を得ていますが、その反面、自分の考えや意見を自分の言葉で表現する力には課題が見られます。また、提出物(宿題含む)の忘れが多いことも課題です。これらの課題は、小学校との連携が必要となるので、小中間で共有して対応していきます。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物等をする生徒が多いとは知らなかったが、そうなるも許されるという雰囲気があるのでしょうか。 ・多数の人前での発表は大きな経験になっているので良いと思う。挨拶は大変良いが形式的になっていないか、趣旨や目的を理解させるのも重要。 ・お便りが保護者の手元に届かないため連絡が行き届いていないと感じています。 ・家庭環境に左右され、評価の低下はいたしかたない。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のため積極的に取り組んでいる。(市共通項目)	B	教職員事故防止に向けて職員会議や研修、日報、校長室からの連絡を通して発信してきました。本校では、風通しの良い職場、教職員間での情報交換などを通して事故防止に努めてまいりました。学校への信頼の礎となることですので、今後も更なる環境改善に努めてまいります。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで通り風通しの良い職場づくり、情報発信を継続していくことが大切である。 ・努力なされていることに敬意を表します。 ・管理職と個々の教職員との日常的な交流及び主任層への不祥事についての研修が重要である。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にすることを接している。	B	アンケート結果では95%を超える肯定評価が生徒・保護者から得られました。日々、生徒に寄り添って対応してきた教職員の成果です。しかし、昨年に引き続き不登校数は県平均を上回っているため、更なる不登校対策に取組まねばなりません。家庭との連携を通して、1人でも多くの生徒の成長に繋げられるように努めてまいります。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒が多いことにびっくりした。いきなり不登校になるのではないと思うので、保護者と連携をとり、早めに何か手を打っていく必要があると思われる。 ・悩みやいじめの対応を評価します。 ・十分に生徒一人一人を認め大切にすることを接しているよううかがえる。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	ユニバーサルデザインの導入や特別支援教育研修会を実施し、特別支援教育への理解を深めてきました。社会全体が多様化し、学校にも多様化や合理的配慮が求められる時代となり、我々教員も変化が求められています。その為にも、しっかりした知識を身に付け、困っている生徒に的確な指導が施せるよう、学校として特別支援教育を進めていきたいと考えています。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんなことに対応しなければならぬ時代、大変だと思うがよろしくお願ひしたい。 ・支援級の子に対して偏見を持たず同じ学年の友として見ることができていると思います。 ・特別支援教育に対する市民の関心が高まっている中で、有意義な研修会を設定していただきたい。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	今年度はトイレの改装工事が入り、環境面で大きな変化が見られました。その都度、安全点検や日々の点検の中で危険箇所・修理箇所はできる限り最短で修繕を施してきました。備品の廃棄は計画的に行い、環境改善に努めてきました。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者が決められ、良く点検されているようで、授業参観した際に改装したトイレを見学させていただいた。新しいものは気持ちが良いものです。 ・トイレは大変きれいに維持されている。校内の清掃も大変良い。 ・トイレが新しくなったことで生徒の清掃への気持ちも高まったように感じます。 ・校舎内を巡って可能な限り教育環境整備の充実に取り組んでいる様子がうかがえた。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	毎日更新しているHPも広く知れ渡り、定着したようです。また、学校だよりや学年だより、学級通信などを通して、それぞれの立場で浅羽野中学校の教育活動を広く発信してきました。開かれた学校づくりは、浅羽野中学校の教育活動をそれぞれの立場で発信し、まずは知っていただくことから始まります。開かれた学校づくりに向けて今後も取り組んでまいります。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HPが毎日更新されておりびっくりした。 ・HPや浅中だより「胡桃の木」は学校の様子がわかり大変よいです。 ・子どもから手紙が届かない分、HPやメールで情報を得ることができ助かっています。 ・浅羽野中だよりで学校の様子がよく分かる。情報提供は適切だと思う。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	地域人材の活用は、防災教育を中心に行っていました。それ以外の活動について現在模索しています。コロナが明けたようにみえますが今年度はコロナによる学級閉鎖があり、体育祭も変更せざるを得ない状況でした。そんな中で、学校としては地域連携の拡大はもう少し待つ必要があると判断しました。次年度は、少しずつ地域の力を授業等に反映できればと考えています。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にこれといった授業に役立つ力がないのでなかなか難しいと思われる。警察に依頼して、自転車の正しい乗り方教室など取り入れてほしい。 ・防災授業は大変良かった。時間や回数がもう少しあっても良いのでは。 ・文化、伝統や人材等さまざまな資源を教育に生かしていただきたい。 ・問題解決に当たっては、地域の関係機関との連携も大切である。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	A	今年度は小中連携事業を拡大し実践してきました。小学校の先生方との交流する機会を増やし、顔が見える関係を築いてきました。また、研修会を通して小中それぞれの立場から意見交換を行い、連携の強化を感じました。不登校対策や中1ギャップ等課題はたくさんありますが、先生方の想いを小中間で共有し、浅羽野中学校区の児童生徒を9年間を通して育てられるよう、更に積極的に連携していきます。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・想像以上に小中と連携を取っているように感じられた。不登校対策、宿題や提出物の忘れものが多いなども小学校との連携が必要であるようなので、これらについても今後更に推進してほしい。 ・小中連携教育は小5・6年生は特に大切だと思います。継続してください。 ・9年間で子供を育てるという考えでお願いします。 ・小中連携が強まることで、中学校への進学への不安が少なくなり不登校が減るとよいと思います。 ・授業の進捗と生活指導に資する小中学校教職員交流ができるように願う。